

第5学年 国語科学習指導案

い組 男子19名 女子19名 計38名

指導者 中熊 豊仁

1 単元 伝記を読んで、自分の生き方について考えよう (教材「百年後のふるさとを守る」)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第4学年の「読んで考えたことを話し合おう」の学習で、人物の行動や気持ちを叙述に即して読み取り、根拠を示しながら自分の考えをまとめる力を身に付けている。また、「物語を読んで感想を書こう」の学習で、人物の行動や性格と自分の体験を重ね合わせながら読み、人物に関わる感想をもととする態度を身に付けている。さらに、人物の考え方や生き方を自分の考え方や生き方に生かしたいという願いをもっている。

そこで、本単元では、描かれた人物の行動や考え方を自分の経験や考え方と比較・関係付けしながら読み、自分の生き方について考えをまとめる能力や、考えたことを交流し、自分の考えを広げたり深めたりしようとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「伝記を読んで、自分の生き方について考えよう」(教材「百年後のふるさとを守る」)を設定した。

この学習は、伝記に描かれた人物の考え方や生き方について感想をもち、その人物の作品をより深く味わう第6学年の「作品の世界を深く味わおう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「百年後のふるさとを守る」は、被伝者「浜口儀兵衛」の生き方から、自らを育んだ共同体の中の人々の生活や命を守るために、自らの生活を犠牲にしながらもその共同体へ真剣かつ主体的に関わることや長期を見通した防災の大切さについて学ぶことができる文章であり、集団のための行動目標を優先し、協調していこうとする意欲が高まり始めるこの期の子どもたちに適した教材である。また、本教材は、人物がモデルとなった物語の引用と説明、事実の説明、事実の物語的説明、筆者による解説の四つのまとまりから成り、事実と意見の区別、叙述に即した人物の考えの読み取り等、説明的文章と文学的な文章両面の読み取りの力を高めることができる。さらに、筆者が考える浜口儀兵衛の業績への意味付けや筆者の考えから人物へ対する見方や考え方の視点を広げることができ、多面的な視点で自分の生き方を考えるのに適した教材であると言える。

そこで、本単元では、いろいろな人物の生き方が書かれた本を読んで自分の生き方について考えることを、単元を貫く言語活動として設定する。そして、教材「百年後のふるさとを守る」を、どのように伝記を読み、どのような観点で生き方を考えればよいのかを明らかにしながら読み進める。

具体的には、まず、試し作りとして、いろいろな人物の生き方が書かれた本を読んで自分の生き方についての文章を書かせ、うまくいったことやうまくいかなかったことを友達同士で交流しながら整理させ、伝記の読み方や自分の生き方に対する考えのもち方についての課題意識をもたせる。

次に、伝記の読み方を学ばせるために、浜口儀兵衛のしたことや考え方及び業績、筆者の考えに焦点をあてて読み取らせていく。その際、説明的要素と物語的要素を含むまとまりを比較させたり、それらと筆者の考えを関係付けさせたりすることで、伝記における筆者の表現の意図に気付かせる。そして、浜口儀兵衛についての事実と筆者の考えから自分の生き方についてまとめさせる。

さらに、自分の生き方について再度文章を書き、試し作りと比較させて、変容や変容の理由に気付かせ、身に付けた考え方の価値を実感させる。また、友達の文章と比較させることで、自分の考えを深化・拡充すると同時に学び合う喜びを共有させる。

これらの学習によって得られる能力や態度は、叙述から作者の思いを推測しながら読む能力や、人物の伝記とその人物の作品を重ねて読み、作者の考え方や生き方を通して作者に関する様々な作品を読み味わおうとする態度へと結び付いていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味や関心を持っているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)

| |
|--|
| ① 初発の感想。(複数回答) |
| ・浜口儀兵衛の生き方や考え方への共感(32)〈自己犠牲(5) 判断力や決断力(4)先見性や計画性(7)生命尊重(6)一生懸命さや粘り強さ(6)人物像(2)郷土愛(2)〉 ・自己との比較や考えの変容(5) ・協力の大切さ(3) ・これからへの願い(1) |
| ② 浜口儀兵衛の人物像。(複数回答) |
| ・村や人のためにつくす(26) ・優しくて勇気のある人(6) ・堤防を作った人(3) ・優れた決断力をもった人(3) ・諦めない人(3) ・しょうゆ屋(1) ・優れたリーダー(1) |
| ③ 筆者の伝えたいこと。(複数回答) |
| ・浜口儀兵衛のこと(19)〈儀兵衛のおかげで安全であること(4)見習おうということ(9)活躍を知ってほしい(6)〉 ・皆のために働く大切さ(4) ・人の正しい生き方(3) ・人への優しさ(3) ・人の命を守る大切(2) ・村を大切にすること(2) ・命の大切さ(1) ・津波の大変さ(1) ・諦めないことの大切さ(2) ・無答(1) |
| ④ 生き方や考え方について考えたこと。(複数回答) |
| ・みんなのためにがんばる(22) ・自分とは異なる(4) ・自分から積極的に(3) ・もっと優しい気持ち(2) ・人との協力(2) ・自分の悪いところを直す(1) ・未来を考えられる人になる(1) ・決断力のある人に(1) ・津波や地震を教える(1) |
| ⑤ 文章構成 |
| ・筆者の考えの場面に気付いている(2) ・筆者の考えの場面に気付いていない(36) |
| ⑥ 難語句 |
| 智略、宵祭り、賃金、猶予、再興、堤防、豊年、たいまつ、設計、気運、創業、震源地、稲束、共助、地鳴り、家業 |

ほとんどの子どもが、浜口儀兵衛の生き方や考え方に共感する感想を書いており、自己と儀兵衛の生き方を比較し、考えが変わったという子どももいる。人物から学ぶという伝記の読みは、これまでの読書体験や学習を通して自然に身に付いてきているものと考えられる。(①)人物像については、儀兵衛が人の為につくす人であったと答える子どもが多く、人物像を的確にとらえることができている。(②)しかし、筆者の伝えたいことについては、捉えられていない子どもが多く、これは、伝記を書いた筆者の伝記中の人物に対する評価が含まれているという伝記の特徴を理解していないために、場面ごとのまとまりの区別を意識した読みが出来ていないからであると考えられる。(③⑤)本教材を読んで考えた生き方については、伝記中の人物のようになりたいと考えた子どもが多いものの、自分の経験と照らし合わせながら書かれた文章はなく、読み取った事実に対しての直接的な感想が多い。(④)難語句については、子どもたちが日頃使わない伝記の人物のしたことの説明に関する語句が多く挙げられている。(⑥)

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもが伝記を読んで自分の生き方について考える試し作りから課題を見つけ出し、友達との交流を通して、考えをもつための伝記の読み方を身に付けることができるよう、指導内容設定や指導方法を次のように工夫することが大切であると考えます。

ア 伝記を読んで自分の生き方について考えさせるために、儀兵衛がしたことや考え方を整理してまとめさせたり、筆者が儀兵衛の業績に見いだしている意味を考えさせたりしする。そして、筆者が見いだした意味や筆者の考えに対する自分の考えをもたせ、その根拠を考える過程において、生き方考えるための観点を明らかにしていく。また、自分の生き方についての考えを広げたり深めたりするために、いろいろな伝記を読ませ、考えたことを比較・関係付けしながら友達と交流させる。考えを交流する際には、伝記の人物と自分とを関わらせる視点を明確にするような学び合いの場を設定する。

イ 伝記の人物の考え方や筆者の考えをとらえさせるために、まず、まとまりごとにどんなことが書かれているか文章構成を明らかにする。そして、説明的な文章のまとまりについては、年号等の時を表す言葉、「は」「が」など主語の後に付く助詞、「した」など過去形の表現や接続語、文末表現に着目して人物のしたことや業績、筆者の考えを友達との交流を通して読み取らせる。また、物語的な文章のまとまりについては、会話文から心情や考え方をとらえさせたり、人物の行動からその理由や意図を考えさせたりする。

ウ 学習したことに対する有用感や成就感を味わわせて今後の伝記の読みへつなげると共に、学びの総合化を図るために、教材文で学習したことが他の伝記の読みに生きたことを確かめさせたり、身に付けた力を振り返らせたり、伝記を読むことによって得られたよさを交流させたりする。

3 目標

- (1) 伝記や伝記に書かれた人物の考え方や生き方に興味をもち、自分自身の生き方について考えようとするができる。
- (2) 伝記に書かれた人物の事実や伝記を書いた筆者の考えと、自分の経験や考え方との共通点や相違点を明らかにし、自分の生き方について考えをまとめることができる。
- (3) 伝記の特徴を理解し、筆者の表現の工夫を考えながら、事実の説明や筆者の考えが書かれている部分を区別して読むことができる。

4 指導計画（全10時間）

| 過程 | 思いを連続・発展させる心の高まり | 学習課題・学習内容の構造・主な学習活動 | 教師の具体的な働きかけ |
|-----------|--|---|--|
| つかむ・みとおす③ | <p>〇〇とは、どんな人だろう。</p> <p>どんな人かは、分かったけど、それをもとに自分の生き方をどんなふう書けばいいのだろう。</p> | <p>1~3 教材との出会い・試し作り・課題解決の見通し</p> <p>「自分の選んだ伝記を読んで、自分の生き方について考えよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の選んだ伝記を読む ・ 自分の生き方について考える。(試し作り) ・ 単元の目標設定, 学習計画の立案 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元や教材への興味・関心や課題意識を高めさせるために、自分の選んだ伝記から自分の生き方について考える試し作りをさせて、うまくいったことやうまくいかなかったことを挙げさせ、個の課題を明確にさせる。 ○ 伝記の構造や書かれ方の特徴を理解するために、文章構成を確認しながら段落ごとの書かれ方の違いに着目させた上で、被伝者の行動・考え・筆者が考える業績を読み取らせる。 ○ 伝記は事実のみではなく筆者なりの被伝者の業績への意味付けが行われていることに気付かせるために、筆者の表現の工夫について考えさせる。 ○ 限定された場面での読みを生かし、自分の生き方についての考えを深めるために、選んだ伝記についても被伝者の行動や考えを簡単にまとめさせた上で生き方について考えさせる。 ○ 自分の生き方について考えさせるために、伝記の人物の事実に対して行われた意味付けとしての筆者の考えに対して自分の考えをもたせ、その根拠として、自分の考えや経験を挙げさせる。 ○ 一人一人の生き方についての考えを広げさせたり深めさせたりするために、お互いの考えについて、友達と自分の根拠を比較して共通点や差異点を明らかにさせ、自分の立場とその根拠を伝え合わせる。 ○ 本単元の学習を価値付け、今後を生かすために、身に付けた力を振り返ったり、他の伝記を読ませ、考えたことを日記等書かせ、交流させたりする。 |
| しらべる④ | <p>伝記は事実だけでなく、伝記の筆者の考えも書かれているのだな。</p> <p>自分の経験と比べてみるといいのだな。</p> | <p>自分の生き方についてより深く考えるために、伝記はどのように読めばよいのだろうか。</p> <p>4~7 限定された場面での試行錯誤</p> <p>「浜口儀兵衛はどのような人物だったのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浜口儀兵衛の行動や考え方 ・ 浜口儀兵衛の業績へ対する筆者の意味付け ・ 自分の生活や考え方に照らし合わせた読み ・ 自分の生き方についての考え | |
| ふかめる① | <p>学んだことを生かして、自分の選んだ伝記を読み直し、考えをまとめてみよう。</p> | <p>8 広い場面での試行錯誤</p> <p>「自分の選んだ伝記を学んだことをもとに読み直し、自分の生き方について考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の選んだ伝記の読み直し ・ 自分の生き方についての考え | |
| ふりかえる① | <p>書く内容や書き方が分かったから、最初より考えが書けたよ。みんなとの交流で新しい自分を見つけられたよ。</p> | <p>9 試行（試し作り）の見直し（本時）</p> <p>「自分の生き方についての考えを試し作りの考えや友達のと交流し、伝記の読み方について確かめよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 試し作りと見直しの比較と交流 ・ 学習の振り返りと変容の確認 | |
| いかす① | <p>伝記の人物と自分を比べて読むと、考えが深まるね。</p> <p>いろんな伝記を読んで、自分の考えを日記等を書いて紹介しよう。</p> | <p>伝記に書かれた人物の行動や考え、伝記を書いた筆者の行った業績での意味付けを、自分の生活や考え方に照らし合わせて読む。</p> <p>10 活用場面の想起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他の伝記を読む。 ・ 他の伝記について自分の考えを書く。 | |

5 本時 (9 / 10)

(1) 目標

伝記の人物について筆者が考えた意味と対面して考えた自分の生き方について、自分と友達の考えを比較し、考えやその根拠の共通点や差異点を明らかにすることを通して、自分の考えを深めたり広げたりすると共に、学習してきた伝記の読み方のよさを実感することができる。

(2) 本時の展開に当たって

一人一人の考えを深めさせたり、広げさせたりするために、お互いの考えについての根拠の観点を明確にした上で比較させ、共通点や差異点を明らかにさせる。そして、自分と友達の考えや根拠と関係付けさせ、自分の考えを強固・付加・修正できるようにする。

(3) 実際

| 過程 | 主な学習活動 | 時間 | 教師の具体的な働きかけ |
|-----------|--|--|---|
| つかむ・みとおす | <p>1 本時の学習課題を設定する。</p> <p>(1) 前時の学習を振り返る。</p> <p>(2) 学習のめあてを設定する。</p> <p>生き方についての自分と友達の考えを交流し、伝記の読み方をまとめよう。</p> <p>2 課題解決の見通しをもつ。</p> <p>3 自分の変容を確かめ、自分と友達の考えを交流する。</p> <p>見直しには、伝記の読み方を学習したことが生きているかな。友達はどんな本を読んで、どんなふう考えたのだろう。</p> <p>自分で考える【試し作りと見直しの比較】</p> <p>変わったこと 関わらせ方の観点</p> <p>根拠として、実生活の体験を書いているから分かりやすくなったよ。 「実生活の体験」</p> <p>友達と比べる (ひ)</p> <p>みんなと比べる (み)</p> <p>〇〇さんの考えに共感するな。筆者の考えに自分も賛成だし、やろうと思っても勇気がなくてなかなかできない自分がいるけれど、マザーテレサのように人のためになることを、いつもできる人になりたいなって思うから。</p> <p>自分なら筆者の考えに付け加えるよ。以前読んだ本には、イチローは努力だけでなく、練習のしかたを工夫していたと書いてあった。だから、イチローは工夫の人だ。自分もサッカーの練習をもっと工夫しようと思う。</p> <p>比較</p> <p>観点 「自分の実生活」</p> <p>関係付け</p> <p>観点 「読書体験」</p> <p>関係付け</p> <p>交流した感想や気づきをまとめる</p> <p>交流の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな生き方や考え方があつた。友達と交流して考えが広がった。イチローが特に印象に残った。ぜひ、イチローの本を読んでみたい。 伝記も友達の考えも観点をもって読むとさらに考えが深まり、広がったよ。 <p>関わらせ方の観点</p> <p>人物の考え方や人物がしたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ふだん考えていること 実生活での体験 読書体験 もっている知識 | <p>(分)</p> <p>↑</p> <p>7</p> <p>↓</p> | <p>○ 課題意識をもたせるために、本時は本単元のまとめの時間であることを確認し、本単元のめあてやこれまでの学習を意識させるような振り返りをする。</p> <p>○ 学びのよさを実感させるために、「試し作りと見直しは、どのような観点で人物や筆者の考えと自分を関わらせているのか。」と発問して比較させ、明確な観点をもつことによって考えの根拠が明確になり、文章の内容が質的に変容していることに気付かせる。</p> <p>○ 一人一人の考えを深めさせたり広げさせたりするために、お互いの考えについて「友達の考えと根拠について共感できるのかできないのか、また、その根拠はどこにあるのか。」と問い、友達と自分の根拠を比較して共通点や差異点を明らかにさせ、自分の立場とその根拠を伝え合わせる。</p> <p>○ 伝記を読む際や考えを交流する際に関わらせる観点をもつことのよさを実感させ、今後の活用へとつなげるために、「自分で考える」の後に観点を確認、揭示し、その観点を基に交流させるようにする。</p> <p>○ 一人一人の感想や気づきを大切に、学び合いのよさを実感させるために、交流後に、自分の考えが深まったことや広がったこと、その根拠を短冊に書かせて揭示し、感想や気づきを交流させる。</p> <p>○ 学び合いのよさを実感させるために、友達との交流を通して新たな発見をしたり、自分の変容に気付くことのできたりした喜びを振り返らせる。</p> |
| | しらべる・ふかめる | <p>4 感想や伝記の読み方の観点を交流し、まとめる。</p> <p>伝記に書かれた人物についての事実と伝記を書いた筆者の考えを、自分の生活や考え方と関連させながら読む。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、自分や友達のよかったところを話し合う。</p> <p>〇〇さんに自分の考えを認めてもらうことで、自信がわいた。今度伝記を読んだ時は〇〇さんと同じ観点で読んでみたい。</p> | <p>28</p> <p>↓</p> <p>10</p> |
| ふりかえる・いかす | | | |